

いまどきの歴史

一番新しい日本のページ

メキシコブーム
近頃あなどれないテレビドラマの力は
日本とメキシコの友好の扉を開くか？

9月、熱い涙が印象的だった小泉首相の南米歴訪。メキシコではフォックス大統領と自由貿易協定を柱とした「日本メキシコ経済関係協定」を締結した。これは両国の経済発展を目指して、関税の優遇などの経済措置がとられるもの。日本はメキシコに対して肉やオレンジについての市場を開放。メキシコは鉄工や自動車などの鉱工業分野の市場を開放する。

その友好ムードにあやかって、KBS京都はメキシコのテレビ局・テレビサと相互独占配給契約を結んだ。これで互いの番組を放映することが可能になる。10月から放映が始まった「ゲーム・オブ・ライフ」もテレビサの番組。「冬のソナタ」で空前の韓国ブームが起き、韓国の文化などに興味を持つ若者が増えたように、KBS京都がメキシコや南米、そして多くのスペイン語圏の国との友好関係や相互理解の架け橋となってくれることを期待する。スペインのソープオペラはドロドロの愛憎劇が多く、非常にエキサイティングと聞いている。韓国ドラマのように、メキシコドラマが京都人、ひいては日本人の娯楽の幅を広げてくれたら、これ幸いである。

新たに起こった メキシコドラマ旋風



「ホセ様ブーム」に
イジめるヨン様…

テロポスト
ようやく危機管理意識を形にした府警
一刻も早く国際レベルに追いつくべし

テロリストがこれくらい



テロリスト用ポストは
どこですか？

マヌケなら良いけど…

京都府警は秋の人事異動に伴い、国際テロに関する情報分析や警戒を行う危機管理統括官を新設、警視11人を配属した。京都は国際的にも有名で、日本文化の宝庫。しかも、VIP級の国賓が多い。いつ国際テロのターゲットとされてもおかしくない。テロ対策後進国日本の中にあって、市民の警戒意識が世界に顔向けできないほど恥ずべき低さの京都ゆえ、このポストの設置は有意義。さらにこのポストは大規模災害への対応能力向上も目指すという。近頃は9月からの地震で東南海地震も現実味を帯びてきた。しかも京都にはお年寄りが古い家屋にひとり住んでいる世帯も多いので、こういったポストにも期待がかかる。

また、京都駅にも特別警戒隊を設置。関空と直結しているJR京都駅は世界との窓口とも言える存在。先に紹介したポストとともに、こうして危機管理意識を形にしたことをとりあえずは評価したい。もちろん、これからどのような活躍するかが肝心なのだが…



効かなくなっても
あくまで
撃退策は水鉄砲

Ver.3で
遂に投入
「ハバネロ水鉄砲」

環害

サルたちが市街地で暴れ回っているのも 人間の環境破壊に原因があるでござル

山科の御陵や日ノ岡などの住宅地に畑を荒らすなどの野生サル被害が相次いでいる。特に今年の7月からサル被害が目立ち始め、多い時にはなんと20頭もの群れで現れて農作物を荒らすのだという。ついには民家に侵入して食べ物を盗む悪サルあり、子サルを撮影しようとした女子高生に襲いかかり、軽傷を負わせた親ザルありと、暴虐ぶりはますますエスカレートするばかり。そこで立ち上がったのが京都府警山科署。住民の苦情を受け、パトカーに水鉄砲を装備し、本格的な撃退作戦に乗り出した。しかしながらサルは学習する動物。「水鉄砲程度ではすぐに慣れてしまうのでは？」と効果を疑問視する専門家もいる。一方、山科署は「ダメなら水にカラシや酢を混ぜてみる」と自信満々。野生のサルが住宅街に出没するのは環境破壊などによる餌不足が原因。もともとサルが住んでいる地域を探し出して餌付けをする方が、カラシや酢のムダ遣いよりよっぽど建設的な考え方では？



文◎大塚 祐希

京都で活動するライター集団・大塚祐希事務所CEO。昨年のイスラエル滞在以来、異文化を紹介するTEXTREAM PROJECTを始動。20カ国に及ぶ人とネットワークを構築し、ボーダレスな活躍を目指す。
HP●<http://www1.ocn.ne.jp/tsukapon/>



イラスト◎両口 和史

1967年京都市生まれ。京都精華大学美術学部卒業。北山のオフィスにて様々なキャラクターやイラスト制作をおこなうユニット「キャトル・イラストレーション」のチーフ。猫、フランス車、家具、雑貨、レコード、本、おもちゃ、平日の公園。それらがイラストを構成するエッセンスである。HP●<http://www.d1.dion.ne.jp/ryoguchi>